

入賞

齋藤明日香 [京都府/17歳] テーマ「いのち」

親鸞聖人へ

親鸞聖人は“いのち”についてどうお考えですか。私は今まで“いのち”とは、人間一人一人に平等であり、どんな人間のいのちでも決して優劣をつけることは許されない、対等な重み・価値があるものだと考えていました。もちろん、この考えは今でも間違っているとは思っていません。むしろこれは『いのちの定義』であるといっても過言ではないと思います。しかし、私はつい最近、この定義に疑問をもつような出来事に出会いました。

私はいつも通り学校に登校し、いつも通り授業を受けていました。そこに一通のメールが届きました。そのメールを見たとき、私は愕然としました。それには、私の大切な人が病に倒れ、危篤の状態にあると綴られていたのです。授業が終わると、私はすぐに学校を飛び出し、大切な人が運ばれたという病院へ向かいました。病院へ向かう電車の中で、私は何度も何度も繰り返し、願うように、このようなことを考えていました。(私のいのちと引替えにしてもいい。だから大切な人を助けてください・・・)と。

幸い手術も成功し、私の大切な人は助かりました。しかし、今になって振り返ってみると、あの時、私は確かに自分のいのち以上に大切な人のいのちの方が大切だと感じていました。『いのちの定義』を覆したのです。

これらのことは、結婚なされていた親鸞聖人には、ご理解頂けると思います。大切な人ができたときの人間のいのちへの強い気持ちは、とても興味深いものですよね。もし良ければ今度、お茶でもしながら、“いのち”について語り合いませんか。親鸞聖人のご都合が合うときで結構です。お返事、お待ちしております。

では、今日はこの辺りで失礼します。

寒くなってきましたので、お体にはお気をつけ下さい。